

極低温科学センターの中期目標、中期計画について

極低温科学センター

センター長 井上明久

中期目標・計画策定WG：青木晴善、落合明、野島勉

極低温科学センターは平成8年に、それまで全学のヘリウム供給など純粋な支援業務を主な使命とする低温センターと、純粋に研究のみを使命とする理学部附属極微量エネルギー施設が発展的に統合し、設立されました。低温関係のセンターとしては専任の教授職が認められたはじめての例であり、支援と研究の融合を目指した、新しいタイプの学内共同教育研究施設です。

本センターの使命のひとつは低温関係の研究・教育の支援であり、中でも液体ヘリウムの安定供給は最も重要な使命であります。改組後はこれに加え、単純支援組織あるいは純粋の低温研究組織にはない新しい機能を発揮できるよう、以下のような方針で努力をしてまいりました。

- 1) 学内の研究と広い接点を持つ研究分野を選び、その分野での先端的研究を推進する。
- 2) 培った研究ポテンシャルを利用し、共同利用、共同研究を推進する。また、共同利用、共同研究のための装置整備などの基盤整備を行なう。
- 3) 支援の質的な向上を行なう。また、ヘリウム回収配管網の整備や低温安全教育など部局を横断した事項に関する企画に積極的関与を行なう。

これらの方針とそれらに沿ったこれまでの活動・成果は平成13年度末に行われた外部評価においても高い評価を受けたと考えております。また、ここ数年の共同利用・共同研究の大きな増加などは、本センターの新しい活動が学内の低温利用研究者の要望に合致していることを示していると思います。さらに、いくつかの主要大学においては本センターと同様に、研究と支援を融合した新しい組織への転換が図られつつあります。

現在、研究と支援の融合という新しい使命達成への基盤がようやく整いつつある段階であります。本学における液体ヘリウム供給量は年々増加しており、液体ヘリウムの安定供給は今後も本センターが果たすべき重要な機能であることには変わりはありません。さらに、独立行政法人化はこれまでにないフレキシビリティが与えられるため、中期計画の実施は、質的に異なる新しい組織を完成させる絶好の機会と捕らえ、上記の方針に加え、以下のようなことを重点的に推進したいと思っております。

- 4) 本センターの特徴を生かし、共同研究、共同利用を一層強化する。特に、センター内の研究および共同研究において、重点研究分野への研究資源の戦略的投資を行なう。
- 5) 学内に対してばかりでなく、地域への貢献が可能な基盤形成と研究成果の社会への還元を図る。さらに、国際的な共同研究などの展開を目指す。
- 6) 教育にも積極的に関与し、専門研究者の育成を行なう。

これらにより学内の多様な研究分野において低温に関する必要不可欠な研究基盤を提供できる組織であるとともに、物質・材料研究分野などにおける中核をになう組織として発展することを目指したいと思っております。

今後とも、御指導、御鞭撻とともに、ご支援をいただけますよう御願い申し上げます。